



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0025
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第371号

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

よろしくお願ひします 青木 悟神父

水巻教会の皆様、イ・スンヒョン神父様とともに、よろしくお願ひいたします。春めいた気候から、寒くなったり、暑くなったり、気候の変化が激しいこの頃です。それに負けないくらい、社会の変化も大きいようです。移動も一つの変化でしょう。4月、5月は、この変化に、心と体がついていかなくなってしまうこともあるようです。その寒さ、暑さの自然の変化に対応しながら、その移り変わりに、いろいろな気付きを体験し、自然の恵みを味わっていただけたらと思います。

復活という出来事も大きな変化とも言えるでしょう。死から命に変わる、これほど大きな変化はなく、それゆえに、過ぎ越しという言葉がふさわしいといえる出来事です。復活という出来事によって、何が変わったのでしょうか。イエス様ご自身は、どうでしょうか。イエス様の弟子たちや私たちへの思いは変わることがないでしょうか。

では、何かが変わったのでしょうか。弟子たちは、心の目を開かれ、本当のイエス様に出会うことができました。弟子たちは大きく、深く、変わりました。それは、また、聖霊の恵みでもありました。弟子たちの気づきは、イエス様の愛の深さがどれほどであったかという気づきでした。イエス様が、その点に

ついては変わったということではなく、弟子たちがやっと気づいたということでした。

「私たちは見たこと、聞いたことを伝えます」とあるように、弟子たちが、体験し、気づいたことは、福音書や使徒たちの手紙の形で私たちに残されました。

自然の変化である、春の息吹や芽生えも、自然の中に、特に、冬の厳しさの中に、あるいは、冬の厳しさの中でこそ、養われていたものが芽吹いたという変化でしょう。

すでにそこに存在しているが、気づかない、目には見えない力が、生命力が、そこにすでにあったのです。そして、今、芽吹いている命は、すでに、次の命の芽吹きでもあるのです。

復活の季節、命の祝祭を感謝のうちに捧げましょう。

水巻教会の皆様へ	2面
幼稚園より	2面
世界三大宗教を知る	3面
小教区委員会	4・5面
今月の聖人	5面
四旬節黙想会	6・7面
お知らせ	8面

水巻教会の皆様へ 宮崎 翔太郎

1年間お世話になります宮崎翔太郎と申します。神学科の2年生です。出身は長崎県佐世保市、所属教区は東京教区です。両親はもともと信者ではありませんでしたが、姉と私が長崎の純真幼稚園に通い、シスターとの出会いがきっかけでまず母と姉が洗礼を受け、その翌年の復活祭で父と私が洗礼の恵みにあずかりました。

高校2年のときに、母が闘病生活の末、天に召されたのを機に、聖書に触れることが多くなりました。また同じ年に、友人が暴力沙汰で、大学時代には教会の友人がバイク事故で命を落としました。彼らとの対話は今も尽きることがありません。

社会人のある時期、誘惑のうちに、神を試みるかのように罪を重ねたことがありました。深い罪意識、罪の重さ、その深さに飲み込まれそうになっていました。そんなとき、あるミサで神の愛をラブレターにたとえた説教がありました。その帰り道だったと思います。モンシロチョウが飛ぶ眩い陽の光と春の温かさの中で、神のふかいゆるし、神の圧倒的な愛に打たれたように感じたのです。こちらは神さまを試みるばかり。なのに、神は罰や報復どころか、私の生をゆるし、愛でもって応えて下さっている！その喜びに突き動かされ、感謝と深い痛悔のうちにゆるしの秘跡を受けに行ったのを覚えています。

数々の体験の積み重ねが、今の召命の道につながっているように感じています。



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 5月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

<マリア子どもの家> 2018年4月より、宗教法人カトリック福岡司教区「マリア子どもの家」(保育園)を創設しました。開園に先立ち、3月24日(土)宮原良治司教様の司式で、新築園舎祝福式を行いました。祝福式には水巻カトリック教会のマヘル神父様、田中委員長様と沢山の方に列席いただき、誠にありがとうございました。

創設の目的：・キリストの福音を軸に0～6歳のモンテッソーリ教育。・地域社会の子育て支援。

対象園児： 1・2歳 満3歳になったら隣接地の聖母幼稚園に入園可能となります。

園児数： 2018年度は12名でスタートしましたが、次年度は20名まで増員予定です。

ご希望の方は、お問い合わせください。

マリア子どもの家 Tel: 050 5212 7759 HP: 水巻町マリア子どもの家

<水巻聖母幼稚園>5月は聖母マリア様の月です。子どもたちはマリア様に倣って、優しい子どもになれるよう励みます。

「みんななかよく」 ・日 時：5月24日(木) 10:30～12:00

・対象(未就園児): 0歳～満3歳までのお友達です。どなたでもお気軽に遊びに来てください。

・場所：水巻聖母幼稚園 2Fホール

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家 園長 Sr 松川明子・教職員一同

(世界三大宗教を知る)

イスラム教 (2)

2、イスラム教の成り立ちとスンニ派とシーア派

中東の戦争で良く出てくるのが、スンニ派とシーア派という言葉です。イスラム教は大きくこの二つに派に分かれています。私たちには理解できないことですが、この派の違いだけで戦争をするほど互いに憎しみ合っています。その原因は、簡単に言うとイスラム教が始まった初期から信仰の方向が違うからです。

*イスラム教の成り立ち

ムハンマドは570年にアラビア半島のメッカで生まれました。当時の中東世界は東のササン朝ペルシャと西のビザンチン帝国が栄えていて互いに勢力を争っていました。そのため東西を結ぶ貿易通路は戦いが無いアラビア半島に限られていました。メッカは東西貿易の中心都市として繁栄していました。ムハンマドはこのメッカで繁栄していた豪族のクライシュ部族のハーシム家の長男として生まれ商人として生きてきました。

しかしムハンマドの家は彼が小さい時に父親が死んだために貧しい生活をしていましたが、商才があったために商人として成功しました。ムハンマドは生活が安定すると毎年一定の期間メッカ郊外のヒラー山の洞窟に籠るようになりました。ムハンマドが40歳の610年のある日、彼は洞窟の中で異様な経験をしました。ムハンマドの前に天使ジブリール(ガブリエル)が現れ、文字の書かれた錦織の布を突き付けてこれを読誦しろと言いました。ムハンマドは読み書きが出来なかったので出来ないと言うと天使は次のように唱えました。

「誦め(よめ)! 創造主なる主の御名において。いとも小さき凝血より人間を創られた。誦め! 汝の主はこよなく有難いお方。筆をもつ全てを教えられた。人間に未知なることを教えられた」これがムハンマドに伝えられた最初の掲示でした。その後、ムハンマドは神の教えを人々に伝えました。イスラム教では、**ムハンマドが完全な預言者**とされています。

*シーア派とスンニ派

ムハンマドは632年に62歳で亡くなりました。彼の死後に困ったのは、ムハンマドは後を継ぐ息子がいませんでしたし、後継者について何も指示を残さなかったことでした。

そのため、後継者は選挙で選ぶことになり、第一の弟子アブーバクルが後継者(カリフ)になりました。その後、ウマル、ウスマーン、アリーと四代のカリフが選挙で選ばれました。

ところが二代目から四代目までは暗殺者によって殺されました。しかし、四代目のアリーだけがムハンマドの従弟で唯一ムハンマドの血筋を引くものでした。それで「アリー支持を基本とする考え」が受け継がれていきました。これが「シーア派」です。

一方で「預言者のスンナ(言動)に従う人々」がいました。この人たちをスンニ派と呼びます。スンニ派は共同体の統一を重視するのが特徴で、全世界のムスリムの80~90%を占める圧倒的な主流派です。

(広報 岩本)

委員会等報告

2018年4月分

4月度小教区委員会 4月15日

1. 行事予定

- ・5月13日(日)小教区委員会・総会議案確認
 典礼研修会 小倉教会
 14:00～ 「ミサについて」
- ・5月20日(日) 納骨堂利用者集会
- ・5月27日(日) 北九州信徒協
 小倉教会 14:00～
- ・6月 3日(日) 小教区委員会
 総会議案最終確認&印刷
- ・6月10日(日) 総会議案 配布
- ・6月24日(日) 総会

2. 議事

(1) 地区集会の結果について

- ①梅ノ木：教会に来られない方々の送迎を検討して欲しい。
- ②芦屋：地区を合併して欲しい。高齢化と人が居ない。
- ③海老津：次期地区役員は未定。
- ④折尾：次期役員は田中直子さんに引き継いでいく。
- ⑤高須・青葉：次期地区役員は大塚孝さんに変更。
- ⑥遠賀：特別営繕献金を維持費からではなく別途設けるべきでは(意見)
 納骨堂の献金を教会会計と別管理とするべきでは(意見)
- ⑦中間：特別営繕献金を維持費からを継続して欲しい(意見)
 納骨堂の献金を教会会計と別管理とするべきでは(意見)

ミサ後のお知らせはゆっくり、はっきり伝えて欲しい。

- ⑧吉田：特別営繕献金を維持費からではなく別途設けるべきでは(意見)
 地区を合併して欲しい。高齢化と人が居ない。
- ⑨赤間：地区を合併して欲しい。地区が広く、又水巻から遠く、高齢化と人が居ない。
 ※地区集会での意見を受け、2018年度小教区委員会において、高齢者のミサへの送迎、地区割りの見直し を課題として検討していく。
 ※一般会計と営繕献金の管理については役員会にて検討し、次回小教区委員会にて提案する。

3. その他

(1) まかないについて

橋本富美さんをお願いしました。

時給 800 円。火～金曜日の昼食、夕食を準備していただきます。

(2) 2018 年度予算について

司祭給与、まかない分の予算を見直し。

司祭給与は 125,000 円/月 賞与 2 回 (1ヶ月分×2回) とする。(教区標準による)

(3) 典礼委員長について

マヘル神父様から松尾隆さんに変更する。

(4) 営繕について

下記、対象箇所の修理を行うこととする。

- ①正門の門②司祭館のキッチンの窓がひび割れ。

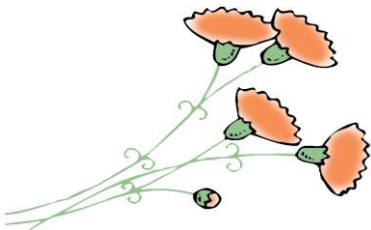
《典礼研修会のご案内》

2015年11月に典礼の見直しが行われましたが、まだ徹底できていない部分が見受けられます。典礼への理解を深めることを目的として、北九州信徒協主催の典礼研修会が開催されます。ぜひ、ご参加ください。

テーマ「ミサについて」

5月13日(日) 小倉教会 14:00~

講師 十時神父



《駐車場の利用について》

西側駐車場に止める際は、ブロック塀際の奥から止めるようにお願いします。そうすればもっと多くの車を駐車することができます。

北側駐車場は、歩道を通って駐車場に入れるように車止めを奥に移設しました。歩道を通って旋回して出口に頭を向ける形で駐車できるよう、柵の一部を撤去して空けてあります。早く帰りたい方は北側の駐車場または園庭を利用ください。

なお、出口付近に駐車した方は、ミサ後、一旦、速やかに車を出し、急いでいる方が帰られるように配慮ください。

今月の聖人 15日 聖イシドロ農夫 1070年-1130年

スペインのマドリッドの貧しい農家に生まれたイシドロは、幼いころから父の農業を手伝っていたが、一家の貧窮を救うために裕福な地主のもとで働くようになった。彼は熱心に働いたので、毎日、教会の中で祈る時間をもることができた。休まずに働いている他の人より、イシドロが耕す田のほうが、収穫が多かったのである。



彼は、「わたしは、植えるが、成長させるのは神である。植える者も水を注ぐ者も取るに足りない。ただ尊いのは成長させてくださる神である」という信念から、労働に祈りを合わせていった。温かい心の持ち主で、ある雪の降る日、小麦を製粉所に運んでいく途中、小鳥が食べ物がなく震えているのを見て、小麦の半分を与えた。減っているはずの小麦が、製粉所に着くまでに奇跡的にいっぱいになっていたという。農業の保護者である。

四旬節黙想会(第2回目) 2月25日(日) 牧山強美神父

(前号のとおり) 愛を定義してギリシャ人の愛の4分類が参考になる。その中で、アガペーは「私は他者のために向かう」というもの。これは十字架の愛であり、私は誰かのために、相手のためにというもの。

ミサの後半部分、それはエウカリスチアと名付けられる。なお、ミサ全体のことも、こう呼ばれることもある。(ミサの後半部は聖体拝領が中心。) そこではパンが割かれる。

なぜ、パンを割くか? 「これは私の体。これをあなたに。」と語られつつ、割かれた。割って与えて、キリストである体が示され、これをイエスは与えた。

与えるとなると、それを欲しい人はたくさんいる。貧しい人に与えると、欲しい人はいくらでも現れる。

イエスは、すべてを与え尽くして、死んでいった。「割いて与える。」与え尽くすことは、死を意味する。私のために取っておけばいいけど、与える。私は私のためには食べず、私が与えることでこの子は生きる。私は与えると、死んでゆく。

「与え尽くして、死んでいった」、というキリストの神の姿があり、そこに、私達の幸せが隠されている。

なぜ、私たちは苦しんでいるか? 苦しみを抱えているか? 「私は満たされてない?」「私は被害を受ける。」「運が悪い」・・・それで苦しんでいるのか? 私は私を誰かのために用いることで回復する。これが、キリスト教の愛の真理。

キリスト教は厳しい宗教である。金持ちの青年。あなたについて行きたい。これは一般的な希望。ところが、イエスは言われた: 「金持ちの青年に、財産を施してから、私に従いなさい。」

私のためだけの、人生ではない。私は誰かのために、生きる。苦しんでいる人(を見る)。そこにキリスト教の中心がある。

「神父様は、いい車に乗っている。」と言われたとする。それを売って、施しもできる。神父は、「いや、車は買い物に行く必要がある」と弁明する。答える理由をたくさん持っている。でもイエス様は、そうは云わないかもしれない。私は、生活で、私を大切にしようとした。私がい人、満足していいのではない。誰かに、向かわせたい。奉仕する。それが、私の幸せ。

例えばスーダンでの紛争。この世に存在するすべての紛争、争い、領土争い、家庭のいざこざ。何が原因か? それは、エロスの愛の行き過ぎだ。(日本海の) 竹島。これはうちのもの。自分のためにと行って紛争が生じる。尖閣諸島もそう。

与えてゆく。そして死んでゆく。この価値を見直したい。95%は自分のため、5%は人のために。財産だけでなく、時間も、口、手足、目、鼻を使え。

ちなみに、この世の富裕層が、自分の持っているものを、30パーセント差し出すと、こ

の世の飢餓がなくなると言われている。

夫婦ならば、自分の配偶者と約束した。それを愛した。そこから、すべての人を愛する様に、その人を愛することに至る。そういう、信徒としてのあり方が幸せとなる。「自分がやりたいように生きた。」そういうところから、変えてゆく、これに挑戦していく。

この愛する子に聴きなさい。すべてを与え尽くし、十字架にさらされ、人の前に、さらされた方に。石を投げられたこの方の中に、メッセージを受け取ってくれる。おそらく、今の世界の人達は、価値を理解できる。マザーテレサを分かって貰える。キリスト教が世界に果たした役割。これは私のものだ、しかし、あなたが必要だということに、考えて欲しい。

<ここからは午後の部、質疑応答の後>

神学校では、山の上に立派な桜の木があまりにもたくさんある。私達の信仰の状態はその様だ。あまりにたくさんあるものの中で、最も大切なものは何か。それは、今日の午前中に見た、十字架の死の中に現れているもの(=イエスが身を以って示された、「与え尽くして死んでゆく」こと)、それが信仰の核心である。

さて罪とは何か？ 罪とは、アガペーの愛から外れること。罪の根源には、7つの罪源があるが、特に、重いものは「自分でできる、神は必要とない」というもの。罪の本質はエゴイズム、これが罪の中心。私さえよければ、「私が中心」と感ずること。

人は苦しんでいる。苦しんでいるから、それを許してもらおう。私達が、苦しんでいるとき、そこに何かある。他の人の罪で苦しんでいることもあるが、それは本質的ではない。自分の罪の故に苦しむ。それを許して頂く。許して頂けなければ、私達には、傷として残る。

許しの秘跡はある地域では、今でも告解と言われているが、「告解」と「許し」はポイントが違う。告解は罪を白状するイメージ。許しも、罪を告白することが条件ではあるが、「帳消しにすること」、「安心しなさい。あなたの罪は許された」の言葉で理解される。

一3人の人を殺した罪人が、許しの秘跡を受けて、果たして神様は許すと思うか、一3人の人殺しをした罪人に対してすら司祭は告げる：「父と子が聖霊の名によって許します。許しは実現された」と。一方で、社会的な被害を与えたのだから、社会的な戒めは受けなければならない。(警察への)自首は勧めるべきだが。

これが我が息子なら勘当するかもしれない。しかし、神は放蕩息子を許された。一方で、(私達は許せと言われても)感情のコントロールはできないかもしれない。マヘル神父様に殴られたなら、恨むだろう。しかし、どんな相手でも挨拶すること、そして、食卓を囲むことで、許しが具現できる。一致が生まれる。その最も理想的な形がミサで囲む食卓である。

ミサでの食卓を囲み、分け、与えられたものを頂いて帰る。そして私がキリストの体になり、派遣される。私を分かち合う。そこで、この喜びが生まれて、支えられて、生きる。

(広報委員 三谷尚 記述)



5月のおしらせ

★ホームレス炊き出し★

3月23日 ホームレス炊き出しをしました。参加者17名でした。多数の参加ありがとうございました。

弁当127個(7個おまけ)支援センターに届けました。

次回は、11月23日の予定です。

抱撲会に8,359円寄付しました。

1人200円×120=24,000円

材料代は残を引いた分

★特別献金★

聖地のための献金 ￥15,740

四旬節 愛の献金 ￥51,146

カテドラル特別献金 ￥21,180

★聖母月です★

5月は聖母月です。そのため、ミサの始まる前にロザリオを唱えます。

★お知らせ★

マヘル神父様からお礼のお手紙が届いています。聖堂後ろの掲示板に貼っています。

★特別寄付★

次の方よりご寄付をいただきました。

芦屋地区 濱口悦子様

ありがとうございました。

★納骨堂利用者集会★

5月に納骨堂利用者集会をします。納骨堂を利用されている方は、参加をお願いします。5月20日ミサ後を予定しています。

★レプトン会より★

2017年度の会計報告をしております。

納入袋の中に入れております。お取りください。



【帰天】安らかに

濱口 裕さん(芦屋地区)

福嶋正弘さん(遠賀地区)



黙想会記事への補足：

エウカリスチアは通例の意味では聖体。同時に、当黙想会で、まず語られたとおり、ミサ後半部を指す言葉、特に、感謝の祈り・奉献文。さらには、ミサ全体(感謝の祭儀)をも指すことがあります。なお、ミサという語句は、ミサの最後に語れる派遣の祝福：イテ ミサ エスト から来ています。(ミサ エスト=終わりました。イテ=行きなさい。)